



令和3年10月1日  
伊勢市教育研究所  
伊勢市小俣町元町540番地

令和3年度

## 乳幼児教育専門研修講座

### 保育の場で子どもの遊び心をはぐくむ

講師：富田 昌平さん（三重大大学教授）

今年度の最初の研修講座は、三重大学教育学部 富田昌平教授をお招きした「乳幼児教育専門講座」でした。幼児期の教育は遊びを通して行われるもの。しかし、遊びの中で教育が強調されればされるほど、遊び本来の魅力が薄れてきている。遊びに必要なのは夢中になれる楽しさや底抜けの面白さである。保育の場で子どもの遊び心をはぐくむことの必要性と大切さを中心に講演いただきました。



#### 「遊び心」とは？

- ・遊びたがる心
- ・面白さに躍動する心
- ・失敗や逸脱を楽しむ心
- ・生きる喜びや驚きに没入する心

「不寛容な時代」  
を乗り越える  
ちからとなる

#### 参加者の感想より

- 日々の保育において、つつい学びや発達の意義にばかり目が行きがちだが、遊びは面白い・面白くないで評価されるものであるということに気付かされた。自分の保育を見直すとともに、他の保育者と話し合っていきたい。
- 保育所保育指針が改正され、遊びがより重要視されるようになりました。講演の中で、「遊びは面白いー面白くないで評価されるもの」であり、『面白さに心が躍動する世界』を深く捉えていくことが必要であると学びました。「子どもの探索・探求欲求を満たす」保育室を作り、「自ら遊びだす力の根」を育てていきたいです。
- 教師が、「このあそびはおしまい。」と言うと「やったあ。もうあそんでいい？」と言った子どもがいたというお話は、自分の保育を振り返り、ドキッとした話でした。
- 遊びというものが多種多様であり、子どもの成長にとって欠かすことができないということを理解したうえで、日々保育にあたっています。子育てを活かして子どもたちに質の良いあそびをと奮闘していますが、意味のあるものでなくてはと偏った考え方になりつつあったことを実感しました。子どもの気持ちに共感し、あそびという経験が子どもの成長や学びに通じていくと改めて理解し、今後の保育に活かしていきたいと思えます。

# 令和3年度 若手教職員の学びを支える研修講座 (全4回)

伊勢市教育研究所では、これからの教育を担う若手教職員の活躍を期待し、今年度も「若手教職員の学びを支える研修講座」を開催しています。今年度は、すべてオンライン形式での開催となりました。

## 第1回

### 「教師が持つべき情報モラル」

講師：出口 晃 ICTアドバイザー  
(伊勢市教育研究所)



1人1台タブレット端末の活用に伴い改めて、教職員として必要な情報モラルについて研修を実施しました。参加者からは、「怖さだけでなく、

良さにも気づけた」「インターネットの様々な影響を改めて考え、今後の子どもたちへの指導に活かしていきたい」「ネットの公開性、記録性を痛感した」「スマホの使用時間で脳の発達に影響があり、大きく学力の差が生まれていることに驚きました。」など多くの感想が聞かれました。

## 第2回

### 「これで安心！学校事務」

講師：伊勢市小中学校事務の  
共同実施会

講師に、伊勢市小中学校事務の共同実施協議会のみなさんをお迎えし、学校事務職員の立場から、若い先生方に知っておいてほしいことについてお話しいただきました。ご準備いただいた資料は、これから先の長い教職員生活の中で役立つ情報満載で、教職員生活に貴重なバイブルとなりました。



## 第3回

### 「ICT機器を活用した授業づくり」

講師：強力 大和 主事  
(伊勢市教育研究所)

- ★1人1台の端末が導入された背景や教職員として目指すべき姿勢
- ★教科活動におけるICT機器の活用方法

上記2点について研修を行う中で、参加者の意見や考えを質問形式で確認しながら、進めました。参加者からは「授業でロイロノートを活用していますが、まずは生徒一人ひとりが安心して、学びを深めていける雰囲気を作

っていきたい。」と意欲的な声が多く聞かれました。



## 第4回

### 「教育相談スキルアップ

～チーム支援のあり方について～

講師：瀬戸 美奈子 先生  
(三重大学教授)

講師に、三重大学教養教育院 瀬戸 美奈子教授をお迎えし、困り感のある児童生徒への「**チーム支援**」と保護者対応についてお話しいただきました。事例を用いたグループ検討では、お互いの対応について具体的な意見を出し合う交流時間もあり、あっという間の2時間となりました！

